

チャノキイロアザミウマ情報第1号

平成27年5月11日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月15日から21日です（表1）。本年は、春先の平均気温が前年より高い期間が長かったため、チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、前年より3日から6日早いと予測します。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	稲武
第1世代	5/20	5/21	5/15	5/18	5/21	5/18	5/19	5/19	6/10
(前年)	5/25	5/24	5/19	5/24	5/25	5/21	5/24	5/23	6/12
前年差	5日早	3日早	4日早	6日早	4日早	3日早	5日早	4日早	2日早
第2世代	6/16	6/19	6/12	6/17	6/18	6/15	6/15	6/17	7/9

各地のアメダス平均気温から予測。

5月10日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋のみ前年値）を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

2 防除

ブドウでは、例年5月上旬から成虫の飛来があり（図）、5月下旬から6月上旬に幼虫の発生が見られます。カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、初期発生を抑えることが特に重要です。成虫発生ピーク時の農薬散布は、最も防除効果が高いとされています。例年発生の多いほ場では、表1から第1世代成虫の発生ピークを予測し、適期に防除しましょう（表2）。

防風用にマキなどを植えている場合は、マキでの発生にも気を配りましょう。

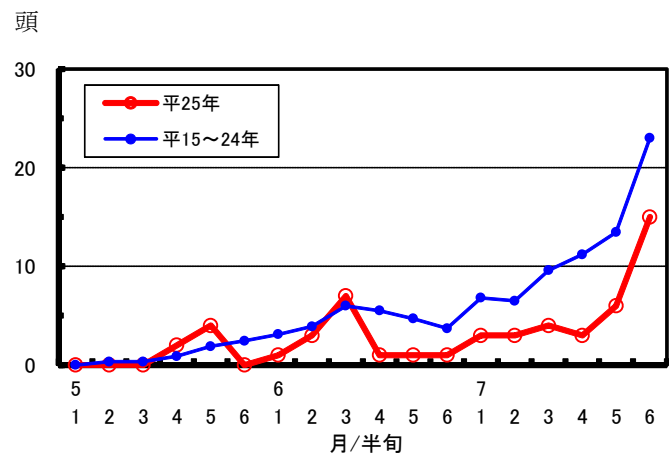


図 粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの成虫誘殺数(東浦町・ブドウ)

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤

作物	薬剤名
ブドウ	モスピラン顆粒水溶剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤
	ディアナWDG
カキ	スプラサイド水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。